

CONTENTS

● 第22回NAMMビジネスツアー報告	1~4
● MIDI規格委員会 MIDI2.0部会報告	5
● 普及委員会 MIDI検定試験実施結果報告	6
● AMEI会員名簿・2019MIDI検定告知・System Exclusive ID会員募集	7

## 第22回NAMMビジネスツアー AMEI/MMA会議報告



GRAMMY®  
Winning  
Technology

### What's New in MIDI

**MIDI 2.0**  
(coming soon)

MPE (MIDI Polyphonic Expression)  
MIDI-CI (Capability Inquiry)  
MIDI-CI Profiles  
MIDI Property Exchange  
MIDI for TRS Connectors  
BLE-MIDI (Bluetooth MIDI)  
Web-MIDI  
High-Res Velocity Prefix

Learn More at  
[www.midi.org](http://www.midi.org)



今年のNAMM SHOWは、2019年1月24日～1月27日の期間で、アナハイム・コンベンションセンターにて開催されました。NAMMの発表では、今回の入場登録者数は、115,301人と、前年（115,085人）を僅かながら上回り、総出展者数も2,000社を超え、去年の2,000社をこれも僅かながら上回り、過去最高を更新。会場もANAHEIM CONVENTION CENTER North HALLが出来てから2年目となり、音響機器やPA関連機器もヤマハブースが出展されるなど、より充実し、昨年より整理された印象を受けました。また、今年は警備体制が変わり、いつもヤマハ会場となっているマリOTTホテルのチケット交換場所へは、通行止めになっていて行けず、手前の入口で行列に並んでNAMMバッジをゲットし、各自会場へ。この毎年変わる警備体制とホテル予約には苦勞させられますが、その後は特にトラブルも無く、MIDI規格委員会主催の第22回NAMMビジネスツアーも、今年も8名の参加を得て、NAMMショー及びMMA総会の日程に合わせ、1月23日出発～1月29日帰国のスケジュールにて実施することができました。

# NAMM ビジネスツアー

第22回 AMEI NAMM ビジネスツアー2019



成田空港にて 2019NAMM ツアー 記念撮影



ダウンタウンディズニーにて夕食



今年のNAMMビジネスツアーは、8名の参加メンバーを得て、例年とちょっとコースを変え、NAMMショーの一日前にロサンゼルスに着き、空港からチャーターバスでロサンゼルスダウンタウンのファーマーズマーケットにて昼食の後、ロサンゼルス市内の渋滞を避けアナハイムへ直行。

アナハイムでは、大谷選手の所属するエンゼルのエンゼル・スタジアムにちょっと寄り道しアナハイムのギターセンター見学というコースで実施しました。入国審査もAPC (Automated Passport Control) のおかげでスムーズになり、夕方にはアナハイムへ到着しました。

## 実りの多い2019 The NAMM Show AMEI ツアー クリムゾンテクノロジー株式会社 波多江 良徳

今年のThe NAMM Showは大変良い気候に恵まれ、春のような陽気。この3年では、これほど良い気候は久しぶりではないかと思う。

弊社は3年目となる製品展示を、MMA (米国MIDI ミュージック・アソシエーション) ブースの中で行った。AI機械学習利用のボイスチェンジャー「リアチェンvoice」(米国名R.C.Voice) のMac版、そして今回初お目見えの 脳波計測によるAI自動作曲システムbrAInMelody のヒーリングミュージック用プロトタイプを紹介だ。

前回までのNAMMの経験では、キャラクタートークでのボイスチェンジャーはNAMMではあまり注目されないことから、弊社としては初の“歌”のためのシステムを試作しプレゼンテーションした。自分としてはたいして自信のない歌を1日何十回も歌うことになったのだが、やはりNAMM、歌だと製品の効果を納得してくれる。周りのブースにはとても迷惑だったと思うが、試作品の来場者による反応を見て、今後の開発を製品として。もちろんビジネスに繋がる話もいくつかいただくことができた。私は英語にも自信はなく、相手の話していることはほとんどわからないのだが、紹介したり質問したりするのは割合好きだ。NAMMを訪れている人々は、米国人ではないケースも多いし、ネイティブでない人が話しているなどと思えば、なんとなく理解しようとして聞いてくれる。やはり音楽で繋がっているからだろうか、説明も楽しくできる。

AMEIにご参加の各社で新製品リリースの際は、伝統のThe

NAMM Showの機会を使うことをお勧めしたい。また、AMEI開催のNAMMツアーであれば、宿泊の手配やLAX-Anaheim間の交通もスムーズなので、こちらも活用されるのが良いと思う。

主にAMEIツアーの皆さんと会合するのは、夕食時になってしまったのだが、初顔合わせの夕食会でもMIDI2.0の発表について語り、さらに最終の夕食でもMIDI2.0と各社の今後の取り組みについて語っていたのが、さすが技術者が多いAMEIツアーだと感じた。もちろんざっくばらんな話もあったが、営業・マーケティングの私としては、皆さんのたいへんな真面目さに実は驚いたのです。



# AMEI/MMA 会議報告

MIDI規格委員会委員長 飛河 和生

MIDI規格委員会では、1月23日から1月29日にかけてNAMMツアー（米国アナハイム）を今年も行い、AMEI・MMA間の国際会議開催やMMA総会に参加しました。今回のツアー参加者は8名でしたが、無事にNAMMツアーを終え全員元気に帰国することが出来ました。

初日の夜はツアー成功を祈って、ダウントウンディズニーに新たに開店したSplitsville Luxury Lanesという、食事とボーリングが出来る新しいタイプのレストランで夕食会を行いました。食事をしながら、今年の1月18日に発表したMIDI2.0や将来の電子楽器の世界について語り合いました。普段は楽器について社内のメンバーと話す機会しかない方が多いと思いますが、楽器業界の各企業の方々と異国の地で食事をしながら意見交換できるのは、このツアーの大きなメリットだと思います。そして翌1月24日からNAMMショーがスタート。今年は昨年よりもさらに活気があったように思います。ただ残念なのは、NAMMに参加される人々の平均年齢が年を追うごとに少しずつ高くなってきているように思います。もっと若い人たちが参加や出展が出来るような仕掛けがあるともっと発展するのではないかと感じます。その意味では新たに出来たACC Northの1階展示会場には、机一つ分の展示スペースの新興企業ブース（主にソフトウェア企業）がずらりと並び、その他にもDTMやPRO AUDIO関連ブースが集められ、このフロアは若い人たちも多く見学に来ており、今までのNAMMとは違う雰囲気に満ちていました。

メインホールほぼ中央入口付近にはMMA主催ブースも置かれ、MIDIの応用紹介と言うことで、日本からも3社の参加がありました。MMAブースは毎年参加企業が増えていて、MIDI規格のアピールに役立っています。今年もスティービー・ワンダーさんがMMAブースを訪問しましたが、上記日本企業の中ではQuicco Sound社（MMA）のブースにスティービーが立ち寄って熱心に説明を聞いていました。1月25日（金）には、AMEIの伊藤会長とMMAのTom White会長との初めての対談となる会合をMMAブースにて行いました。

1月26日（土）は、朝8時からMarriotHotel地下のRanchos Las Palamasという会議室にて毎年恒例のAMEIとMMA間でのオフィシャルミーティングが開かれ、AMEI側からは楽器フェアやMIDI検定も含め1年間の報告ならびにMMAとの意見交換が行われました。今回はMIDI2.0への取り組みに関する発表直後ということもあり、全体的に大きな未来への方向性に基づいた活発な議論が行われました。

また、AMEI会長ならびに副委員長のヤマハの河口様ならびにコルグの池内様、技術研究部会長のヤマハの柿下さんが退任されたため、新たなメンバーのご紹介と共にMMAのボードメンバーにその旨の報告を行い、MMAの方々からも今までの活動に対して大きな賛辞のお言葉を頂きました。退任された方々にはこの場を借りまして、AMEIにて大変素晴らしい成果を上げて頂きましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

なお、MIDI規格委員会では、MIDI2.0の規格ドキュメントの完成に向けて規格審議や検証などの作業を加速させるとともに、電子音楽の将来に向けてMIDI of Things (MoT)のスローガンのもとに活動していきたいと考えています。

また、新たな形でのAMEIのサービス拡大を目指し、新たにシステムエクスクルーシブのIDが獲得できる簡易的な会員制度の設置も目指しています。現在、入会手続きや年会費の設定、体制構築に向けて取り組んでいるところです。この制度が出来ることで、DTMユーザー個人や小さな企業でもシステムエクスクルーシブIDを獲得することが出来ます。MIDIを用いた製品やアプリを開発されている企業や、メーカーフェアなど自作ホビーとしてMIDIや電子音楽を楽しんでいる方、個人やコミュニティなどでMIDIや音のアプリを開発されている方など、MIDIを用いて活動されている周りの皆様にご案内頂けると嬉しく思います。

そして、1月27日（日）午前はMMA総会が行われ、General Session、Technical Session、Afternoon Breakout（General Session以外はMMA/AMEIメンバーのみ参加可能）が開催されました。AMEIメンバーはオブザーバーとして参加しました。

MIDI-CIのさらなる作業や今後のMIDI2.0の活動、さらにはMMAのM2M-WGによるMIDIの新規ロゴやマーケティングプラン、TMA（The MIDI Association）サイトの近況報告として、世界に普及している2.6億台におよぶMIDI対応デバイスユーザーを対象とした活動の取り組みや、May is MIDI Monthと称した5月限定のキャンペーンについてMMAより紹介されました。

午後はMIDI-CIやMIDI2.0のプロトタイピングとして、AMEIの三浦様（ヤマハ）よりMIDI2.0の目的とねらいならびにユースケースプレゼンならびにMIDI各種コントローラの分解能向上デモ、ロードマップ提示を行いました。その後にはMMA主導によるプラグインフェスタが行われました。NAMMでの会合は、MIDI2.0を中心とした近い将来の楽器や様々な関連市場に向けて、大きなファーストステップを踏み出したと言えると思います。これからも、AMEIの活動のご支援を宜しくお願い致します。



Joint MMA/AMEI Meeting



MMA総会



MIDI規格委員会技術研究部会：三浦様によるMIDI2.0についてのプレゼン

# NAMMビジネスツアー

## NAMM ツアー参加レポート

NAMM Showへは初の参加でしたが、会社社内の参加では無かったことで自社組織の縛りを受けることが少なく、AMEIツアーも基本的に参加者は自由に行動してもよいというスタンスでしたので、結果、期間中は束縛の少ない自由な行動を取ることが出来ました。お陰様で数々の多様な出展の視察、MMA 総会、いくつかのセミナー傍聴など、幅広くショーを経験することが出来ました。また社内から少し距離を置いた立ち位置により、自社の立場から一歩引いた目線で客観的にショー全体を見て情報収集を図ることが出来たように思います。ブースを覗いて回った中で個人的に印象的だったのは国内主要メーカーが並ぶ入り口近くに展開していたシンセ/モジュラー関連の集まったエリアでした。国内の楽器フェアなどではこういったジャンルの出展は、ブースの感じや立ち寄り人もちょっとマニア寄り、というどこなく「マイナー感」があるように感じています。一方、今回のNAMMでは人の往来が多い場所に開放的で明るいブースデザインこれらの出展が並び、そこで熱心にシンセ/モジュラー製品を触っている人が絶えず活況を呈している、という「メジャー感」のある光景が印象に残りました。やはり国内とは違うU.S.および世界の市場の間口の広さによるものであるとは思いますが、これは市場のトレンドを反映したものでもあるのではないかと思います。

以前はモジュラーシンセなどの出展は主に地下にあったと伺っていますので、近年それがオーバグラウンドに上がってきたという動きが出ているということでしょうか。また期間中1日を使い、NAMM会場を離れてL.A.の楽器店を視察にも行きました。こちらでもやはり国内楽器店とは違った規模感や商品ラインナップを見て、U.S.での音楽・楽器産業の層の厚さを体感することが出来ました。到着初日にAMEIツアーで比較的会場に近いGuitar Center Orange店を訪問しましたが、実はこども我々の訪問予定候補としていたと

ローランド株式会社 基礎技術部 楠元 佳紀

ころだったので、丁度良くありがたかったです。同業他社の方々との交流を持てるのもAMEIという場ならではの特色だと思います。仕事関連の現場で同業他社の方々とは行動を共にし、フランクに様々な語り合える機会というのはやはり普段無いことです。(プライベートで完全仕事抜きではあったりもするのですが。)楽器や業界のこと、時にはちょっと突っ込んだ事柄についてもダイレクトにお話が出来、とても刺激になり貴重な場となりました。

AMEIツアーに参加させて頂き、とても良い経験になりました。AMEI名義でのNAMMバッジの手配が近年厳しくなっていると伺いましたが、そのような状況でもなんとかバッジを手配頂き、無事参加することが出来ました。ご尽力ご対応いただいたAMEIスタッフおよび参加者の方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



## AMEI NAMM ツアー参加報告

NAMM ショーといえば社内で知らない者はない楽器の大型イベントですが、勤続25年を超えて初めての視察でした。AMEI ツアーで参加させていただいたことで、初めての視察ながら業界での新たな知り合いもでき、またMIDI規格委員会の雰囲気も僅かながら体感でき、大変有意義に過ごせたこと感謝いたします。ありがとうございました。研究部門は直接商品に関連しないとはいえ、業界の動向や「今の」楽器について知るまたとないチャンスがNAMMショーであると考えています。実際に様々な動向を肌で感じ取ることができ、これからの技術を考えるうえで役に立つ経験になったと感じています。

今年度は米国政府機関の閉鎖問題で入国審査に時間がかかるかもしれないとの予想のある中、極めてスムーズに入国できました。その後、ファーマーズマーケットで昼食を取り、アナハイムのギターセンターを視察しました。うわさに聞く「ギターセンター」を初めて目にしましたが、まさにギター。お客さんが思い思いに試奏している様子が印象的でした。楽器以外にも様々な機材が置かれており、日本の楽器店と若干の雰囲気の違いがある印象を受けました。到着日と最終日にツアーメンバーと食事をし、お互いの情報やショーの雰囲気などを交換できたことも有意義でした。またMIDI 2.0がホットな規格委員会の皆さんの会話も興味深く、新しい規格が立ち上がってきている実感も持つことができました。

NAMMショー自体は言うまでもなく「楽器」中心で、特にギター、中でもエレキギターが一番の盛り上がりがあるな、という印象でした。最近になってアコギを始めたのですが、少しだけでもコードが弾けると試奏している来場者の皆さんと一体感を僅かながら感じることができ、まさに世界最大級の楽器ショーを体感した気持ちです。ギターのみならず、管楽器、弦楽器、打楽器、そして電子楽器、ど

ヤマハ株式会社 研究開発統括部 近藤 多伸

の楽器も大きな面積で多種多様に展示されており、大きな盛り上がりを感じられました。NorthではPA系機材の展示があり、またアリーナではLOUDSPEAKER SYSTEM SHOWCASEが実施されており、各社のライブ用スピーカーを比較試聴できる機会を提供していました。

NAMMショーが単なる楽器の展示会ではなく、デモンストレーションや機材系の展示、各所で行われるライブイベントを併せ、「音楽エンターテインメントに関する展示会」であることを強く印象付けられた気持ちです。

最後に改めて、AMEI関係者、ツアー参加者のみなさまに感謝したいと思います。ありがとうございました。

※写真は照明設備の展示エリアでエンターテインメントを端的に示すものとして印象的でした。



# Plugfest & MMA総会プレゼンMIDI2.0レポート

AMEI MIDI 規格委員会 MIDI2.0 部会 杉島部会長

NAMM 会場併設の会議場にて1/27にMMA 総会が行われ、午前のGeneral/Technical Sessionに続いて、午後にはPlugfestが開催された。

PlugfestはMIDI2.0による機器間接続の実現性を検証するためにMMA参加企業を中心とする各社が持ち寄ったプロト

タイプを実際に相互に接続(Plug)して動作確認を行うイベント(fest)である。

ここでPlugfestの接続検証をする前提としてのMIDI2.0概念について、説明したものが下図である。

MIDI2.0では、市場に既存のMIDI機器との互換性を確実に担保するために、MIDI2.0の対応機器にはMIDI-CIによるネゴシエーションを義務付ける。

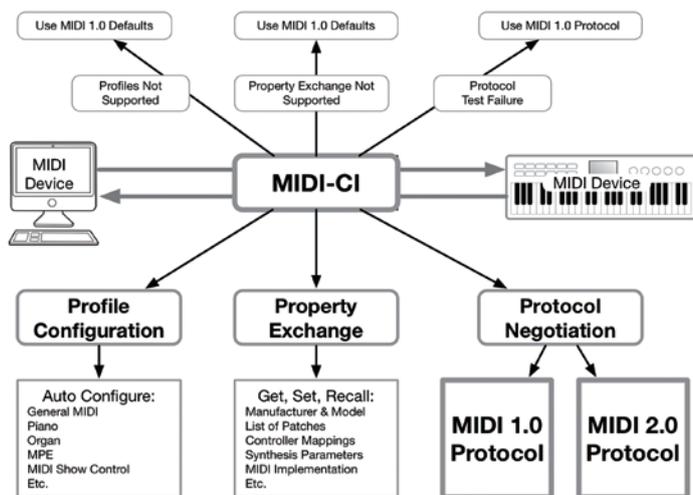
この仕組みにより、接続しようとしている機器同士が互いにどの機能に対応しているかを明らかにする。それらの機器がどのようなプロパティを持っているか、どういった用途でコントローラーを使うことができるか、あるいはMIDI2.0のプロトコルが利用可能かどうか、等々の情報を予め取得した上で、最適な手段によるMIDI機器接続を実現する。

ここでMIDI-CIには、Profile ConfigurationとProperty ExchangeおよびProtocol Negotiationという「3つのP」という仕組みが設けられている。

例えばProperty Exchangeについて補足すると、個々の機器で持っているメタ情報として名称、音色リスト、各種設定値、コントローラーの値域などを、相手機器からの問い合わせに対して情報を返すことができるのがこの仕組みである。

なおMIDI-CI詳細については規格書CA-35も参照されたい。

## MIDI 2.0 Environment



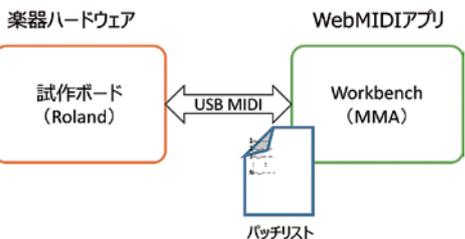
さて、会場ではMMAのPrototype Working Groupの座長であるYamaha Corporation of AmericaのBen Israel氏が司会を務める中、YCA、Bome Software、Art & Logic、Cycling 74、Native Instruments、Imitoneといった企業が、各自で持ち込んだプロトタイプにてデモを行った。

AMEIからもRoland水本氏が社製の試作ボードを用いて、Property Exchangeによるパッチリスト取得などを披露し、MIDI-CIの応用事例としての具体的なイメージを示すことができた(下図参照)。

なお試作ボードからのパッチリスト取得には、MMAのAndrew Mee氏が作成したWebMIDIアプリ(Workbench)を用いることで行った。

他社のデモでは、Native InstrumentsとCycling 74からはMIDI2.0とMIDI1.0とのTranslatorによるメッセージ変換についての解説や、TouchKeysとMaxとReacttorそしてMONTAGEを使用したPer Note Controlのプロトタイプデモの発表もあった。

いずれもMIDI2.0のユースケースや課題への気付きへと繋がりが、新たなMIDIの世界に対する参加企業の期待度の大きさが伝わるイベントとなった。



Anaheim Marriott HOTEL 会場の様子 (右側はRoland水本氏のデモの様子)

## MIDI 検定試験実施結果報告

MIDI 検定指導研究委員会 上杉 尚史



平成30年度のMIDI検定は、3級受験者が一昨年並みに回復し、全体としても微増となりました。また、今年は1級試験が10回目、2級試験に至っては20回目という節目の年となり、受験者の累計も4級～1級を合わせて38,000名を越えました。

ここ数年若い世代の受験者も多く、DAWを中心とした音楽制作が浸透している実感もあります。ただ、電子楽器やMIDIが発展してきた歴史をリアルタイムに感じることができていない若い世代には、DTM世代にとって常識として扱われていた知識が欠落している場合もあり、実技試験のフォローも含めて課題も多く見つかっております。

例えばMIDIチャンネルの設定などは、DAW+ソフトウェアシンセサイザーという環境だと意識しなくても音を出すことができってしまうため、すべてのチャンネルを1チャンネルで制作してしまう受験者も多く見受けられました。また、ベースやギターなどの音を1オクターブ間違えて入力してしまうケースも多く、数社の代表的音源モジュールでDTMをおこなっていた時代ではあまりなかったミスも増えてきています。

このような問題は、検定のガイドブック等でも触れられているのですが、それぞれの制作環境によって様々な要因が重な

るため、丁寧な指導や詳細情報の公開など、最新の環境に対応したフォローアップが必要であると感じております。

さらにMIDI2.0のリリースに伴い、検定の学習内容にも反映させていかなければいけない部分も多々ありますので、次年度はそういった取り組みにも力を注いでいきたいと考えております。



MIDI検定試験結果の推移(国内)

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累計
3級	実施日	第14回 2011	第15回 2012	第16回 2013	第17回 2014	第18回 2015	第19回 2016	第20回 2017	第21回 2018	
	受験者数	12/4	12/2	12/1	12/7	12/6	12/4	12/3	12/2	
	(内学校)	575	590	514	526	493	512	470	525	25920
	合格者数	256	312	298	326	301	242	229	295	13056
	合格率	370	339	261	271	308	378	297	276	17550
	合格率	64.35%	57.46%	50.78%	51.52%	62.47%	73.83%	63.19%	52.57%	67.71%
2級	実施日	第13回 2011	第14回 2012	第15回 2013	第16回 2014	第17回 2015	第18回 2016	第19回 2017	第20回 2018	
	受験者数	12/4	12/2	12/1	12/7	12/6	12/4	12/3	12/2	
	合格者数	161	134	124	117	143	139	182	138	6134
	合格率	109	84	30	73	91	67	139	96	3088
	合格率	67.70%	62.69%	24.19%	62.39%	63.64%	48.20%	76.37%	69.57%	50.34%
	2級 2次	実施日	第13回 2012	第14回 2013	第15回 2014	第16回 2015	第17回 2016	第18回 2017	第19回 2018	第20回 2019
受験者数		2/18 ~ 19 2/25 ~ 26	2/16 ~ 17	2/22 ~ 24	2/21 ~ 23	2/20 ~ 22	2/18 ~ 20	2/24 ~ 26	2/16 ~ 18	
合格者数		88	74	45	78	92	65	88	71	3566
合格率		57	41	21	33	62	39	47	43	1369
合格率		64.77%	55.41%	46.67%	42.31%	67.39%	60.00%	53.41%	60.56%	38.39%
1級		実施日	第3回 2012	第4回 2012	第5回 2013	第6回 2014	第7回 2015	第8回 2016	第9回 2017	第10回 2018
	受験者数	1/20 ~ 30	8/10 ~ 20	8/9 ~ 19	8/8 ~ 18	8/7 ~ 17	8/12 ~ 22	8/11 ~ 21	8/10 ~ 20	
	合格者数	46	45	43	27	34	43	32	40	539
	合格率	19	11	9	14	10	17	9	26	175
	合格率	41.30%	24.44%	20.93%	51.85%	29.41%	39.53%	28.13%	65.00%	32.47%
	国内受験者合計	870	843	726	748	762	759	772	774	36159

中国MIDI検定3級試験の推移

級	内容	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	累計
3級	実施日	第8回 2011	第9回 2012	第10回 2013	第11回 2014	第12回 2015	第13回 2016	第14回 2017	第15回 2018	
	試験会場	12/4	12/16	12/1	12/14	--	12/18	12/10	--	
	受験者数	北京 上海 南京 杭州 瀋陽 青島	上海 南京	北京 上海 南京 杭州 瀋陽 福州 南京 成都 南寧	南京 杭州	今年度は中止	南京	南京	今年度は中止	
	合格者数	(全国6会場)	(全国2会場)	(全国7会場)	(全国2会場)		(全国1会場)	(全国1会場)		1744
	合格率	242	80	243	65		43	36		1531
	合格率	94.63%	87.50%	98.77%	100.00%		100.00%	100.00%		87.79%

**平成30年度 MIDI検定試験**  
MIDI検定と日本の音楽制作現場で最も求められる資格と認定試験です

**第21回3級**  
**第20回2級1次(筆記)**

【実施日】平成30年12月2日(日) 全国一斉  
3級試験 18時30分～20時30分  
2級1次(筆記)試験 3時～4時30分

【受験料】平成30年9月3日(月)～10月31日(木)

受験案内

全国協力校・協力団体 試験会場

MIDI検定3級及び2級1次試験の実施につきましては、下記の学校、団体に会場提供等のご協力を頂きました

**[北海道・東北エリア]**  
クリプトン・フューチャー・メディア・エルム楽器札幌本店・学校法人 日本コンピュータ学園東北電子専門学校・あとり芸芸向上支援協会

**[関東エリア]**  
横浜デジタルアーツ専門学校・国立音楽院・ヤマハミュージックジャパン・トート音楽院 渋谷・PLV音楽院・PPCアートサロン・音楽学校 メーカー・ハウス

**[中部・近畿エリア]**  
学校法人大阪創都学園 キャットミュージックカレッジ 専門学校・コンピューターミュージッククラブ Dee・トート音楽院梅田・専門学校 ESP エンタテインメント・山本ピアノ教室・リュウケイ ミュージック ネット名古屋・名古屋文理大学・リュウケイ ミュージック ネット金沢・金沢科学技術専門学校

**[中国・四国・九州エリア]**  
広島工業大学専門学校・広島コンピュータ専門学校・専門学校九州ビジュアルアーツ・鹿児島キャリアデザイン専門学校・日本文理大学

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますと共に平成28年熊本地震、平成29年九州北部豪雨、平成30年7月豪雨により被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

## 会員名簿

50音順 2019年5月8日現在

<b>あ</b>	<b>す</b>	<b>や</b>
• Apple Japan 合同会社	• 株式会社ズーム	• ヤマハ株式会社
<b>い</b>	• 株式会社鈴木楽器製作所	• 一般財団法人ヤマハ音楽振興会
• 株式会社インターネット	• 株式会社スリック	• 株式会社ヤマハミュージックエンタテインメント
<b>え</b>	<b>た</b>	ホールディングス
• 株式会社エクシング	• 株式会社第一興商	<b>ゆ</b>
<b>か</b>	<b>て</b>	• universe 株式会社
• カシオ計算機株式会社	• ティアック株式会社	<b>ろ</b>
• 株式会社河合楽器製作所	<b>と</b>	• ローランド株式会社
<b>く</b>	• 株式会社ドワンゴ	〈正会員会社 27 社〉
• GVIDO MUSIC 株式会社	<b>な</b>	
• クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	• 株式会社 nana music	<b>* 賛助会員</b>
• クリムゾンテクノロジー株式会社	<b>は</b>	• 中音公司 (中華人民共和国)
<b>こ</b>	• パイオニア株式会社	• 株式会社博秀工芸
• 株式会社コルグ	• Pioneer DJ 株式会社	• 株式会社ミュージックトレード社
<b>し</b>	<b>ふ</b>	• 株式会社リットーミュージック
• 株式会社シーミュージック	• 株式会社フェイス	〈賛助会員会社 4 社〉
• 学校法人尚美学園		
• 株式会社シンクパワー		

# System Exclusive ID

## 会員募集

一般社団法人音楽電子事業協会(AMEI)は、システム・エクスクルーシブID会員の募集を開始します。法人、個人を問わず楽器やMIDIアプリ、自作MIDI機器等を開発しようとするみなさまに、会員規程のもと、System Exclusive Manufacture's ID Numberを発行致します。

[CLICK](#)



令和元年度  
**MIDI検定**  
4級試験  
3級/2級1次試験  
2級2次試験/1級試験



令和元年度  
**MIDI検定**  
指導者認定講座

AMEI NEWS Vol.68 / 2019.6.17  
 一般社団法人音楽電子事業協会 機関誌  
 発行：一般社団法人音楽電子事業協会 事務局  
 〒101-0061  
 東京都千代田区神田三崎町 2-16-9 イトービル 4F  
 TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549  
 発行人：水野 滋  
 編集人：石黒士郎 (広報委員会)  
 編集協力：株式会社 博秀工芸  
 ホームページアドレス：  
<http://www.amei.or.jp/>

